



## ごあいさつ

東京都知事 小池 百合子

第26回東京都障害者スポーツ大会が、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会と東京都の共催で開催できますことを、嬉しく思います。

この大会は「身体」「知的」「精神」の3つの部門で競技を行う、都内最大規模のパラスポーツの祭典です。障害のある人がスポーツを通じて、体力の維持増進、社会への参加、相互交流を図り、自立促進とスポーツ振興に寄与することを目的としています。

選手の皆様が大会出場を契機に活躍の場を広げ、また、他の選手と大いに交流し、競技生活を豊かなものにしていくことを願っています。日頃の練習の成果を発揮して、10月に滋賀県で開催される第24回全国障害者スポーツ大会「わたSHIGA輝く障スポ」への出場を目指しましょう。

今年は、日本で初めてとなるデフリンピックも、ここ東京で開催されます。メダルのデザインを子供たちの投票で決めるなど、多くの都民・国民の皆様が大会に参画します。駅や公共施設では、デジタル技術を活用したユニバーサルコミュニケーションを促進していきます。大会が生み出す様々なレガシーを、共生社会の実現と東京の一層の発展に繋げたいと思います。

今年3月には、「東京都スポーツ推進総合計画」を7年ぶりに改定しました。スポーツを通じた幸福度の数値目標を初めて設け、「応援する」ことを参画方法の一つとして新たに位置づけています。計画に掲げた多彩な施策を力強く推し進め、誰もがスポーツを楽しむ、世界に誇れる都市を実現してまいります。

本大会の開催にご尽力くださった関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。大会の成功がパラスポーツの一層の発展につながり、私たちに多くの感動をもたらしてくれることを期待して、ご挨拶といたします。



## ご挨拶

公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会  
会長 延興 桂

第26回東京都障害者スポーツ大会が、関係者の皆様のご協力とご理解のもとで開催されますことに、主催者の一人として心から感謝申し上げます。

本大会は、10月に開催されます第24回全国障害者スポーツ大会「わたSHIGA輝く障スポ」への派遣選手選考会を兼ねており、毎年多数の選手が参加する都内最大の障害者スポーツ大会です。

この大会は「身体」、「知的」「精神」の3部門で行われます。選手の皆様におかれましては、日頃の練習の成果を思う存分発揮して、大いに大会を楽しんでいただければと存じます。また、この大会を契機に他の選手との交流を深め、共に高め合う仲間をぜひ増やしていただければ幸いです。

スポーツは、健康の維持・増進や人生に潤いを与える世界共通の人類の文化です。今年はこちら東京でデフリンピックが開催されます。トップアスリーの素晴らしいパフォーマンスを間近で見られるまたとない機会であり、障害者スポーツへの関心を高める絶好の機会でもあります。

当協会は、東京の障害者スポーツ振興の中核組織として、障害のある人が「いつでも どこでも いつまでも ～すすめます！スポーツをもっと身近に～」をスローガンに、障害の有無や種別を問わず誰もがスポーツを楽しむことのできる、スポーツを通じた共生社会の実現に向け、東京都と一体となって引き続き様々な取組を行ってまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

終わりに、本大会のために多大なご支援をくださいました多くの方々に、心より感謝申し上げますとともに、重ねて選手の皆様のご健闘を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



## ごあいさつ

特別区長会会長  
新宿区長 吉住 健一

第26回東京都障害者スポーツ大会の開催を心からお慶び申し上げます。

この大会は、多くのパラアスリートが参加する、国内最大規模を誇る「パラスポーツの祭典」であります。今回で第26回目を迎える本大会は、さまざまな障害を乗り越えて活躍されている選手だけでなく、ボランティアの皆さんも含めた多くの関係者が集い、年々大きな輪となっております。

本大会の開会式が東京を代表するスポーツ大会として伝統のある「都民体育大会」と合同で開催されることは、障害のある人とない人がお互いのスポーツ競技への理解をより一層深めることにつながり、すべての人がスポーツのもとで、ひとつの大輪となり発展していく象徴だと思っております。

また、本年11月には、きこえない・きこえにくい人のための国際スポーツ大会である「デフリンピック」が東京で開催されます。この大会は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の施設やレガシーを活用した大会でもあり、国際親善やスポーツの振興はもとより、共生社会に向けた歩みの加速など大きな価値をもたらしてくれることでしょう。

特別区は今後とも、障害のある方々が、住みなれた地域で安心して自分らしく暮らしていくことができるように、障害者スポーツの振興を含めた障害者施策の充実に努め、誰もが幸せを実感できる共生の地域社会の実現を目指してまいります。

どうか皆様もスポーツを通して友情と交流を育まれ、連帯と支え合いの輪を地域に広げていただくことをご期待申し上げます。

本大会に向けて鍛錬を積んできた選手、大会運営にあたっているスタッフの皆さん、そして諸団体、ボランティアの皆さんのご努力とご協力に深く敬意を表すとともに、大会の成功と皆様のご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



## 第26回東京都障害者スポーツ大会開催を祝して

東京都市長会会長

東村山市長 渡部 尚

「第26回東京都障害者スポーツ大会」が多くの皆様のご参加により、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

本大会は、選手の皆様が、日頃積み重ねてきた練習の成果を発揮するとともに、競技を通じて多くの人々と交流の輪を広げる大きな機会であります。

また、出場される選手の皆様だけではなく、ボランティア、スタッフ、選手を応援する方々の熱い思いが、国内最大規模の大会の開催につながっていると感じております。

大会で、選手の方々が真剣勝負を繰り広げる姿は、多くの人々に感動と勇気を与え、人々の心を揺さぶり、障害者スポーツの魅力をあますことなく伝えてくれるものと思います。

本年は、東京2025デフリンピックの開催年であります。デフリンピック100周年の記念すべき大会であるとともに、日本初開催ということで、大きな盛り上がりを見せております。こうした大きな大会を通じて、障害者スポーツに対する関心が大きく高まることで、スポーツを通じた社会参加、相互交流がさらに進むとともに、障害者スポーツの更なる発展につながることを確信しております。

東京都市長会といたしましても、活力あふれる共生社会の実現に向けて、障害者福祉のより一層の増進に努めるとともに、障害がある人もない人も共に暮らしやすいまちづくりに向けて、全力で取り組んで参ります。

結びに、本大会を運営されるスタッフ、ボランティアの皆様のご尽力に対し、深く敬意を表しますとともに、選手の皆様のご活躍と本大会の成功を心からお祈りしてご挨拶の言葉といたします。



## ご挨拶

東京都町村会会長

瑞穂町長 杉浦 裕之

第26回東京都障害者スポーツ大会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

昨年はパリでオリンピック・パラリンピックが開催され、世界中の人々に多くの感動を与えてくれました。スポーツは人の心にストレートに響く力を秘め、競技にひたむきに打ち込み、大舞台で持てる力を出し切るアスリートの姿は、私たちの心を揺り動かします。また、災害や紛争など困難な状況にある人々にも勇気と希望を与え、大きな支えとなるものと思います。

我が国では東京2020パラリンピック競技大会以降、そのレガシーとして障害者スポーツの認知度は向上し、各種競技も注目を集めるようになりました。さらに、今年11月に「第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025」が日本で初めて開催され、来年3月には「ミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会」が開催されるなど、障害者スポーツが身近な存在となり、これまで以上に注目を集める年になると思います。

その一役を担い5月から開催される本大会は、第24回全国障害者スポーツ大会「わたSHIGA輝く障スポ」の東京都代表選手選考会を兼ねています。選手の皆様には、更なる高みを目指し、日々の努力に裏打ちされた実力を遺憾なく発揮していただきたいと思います。皆様の姿を通じて西多摩地域や島しょ地域を含む都内全域に障害者スポーツの魅力が伝わっていくものと確信しています。

東京都町村会としましては、障害者スポーツのより一層の振興に努めるとともに、障害のある方々が住み慣れた地域で安心して生活できる地域社会の確立、誰もが幸せを実感できる共生社会の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

結びに、本大会の開催に向けご尽力いただきました関係者及びボランティアの皆様には深く感謝申し上げますとともに、大会の成功と選手の皆様のご活躍を心からお祈りいたしまして挨拶とさせていただきます。



## 第26回東京都障害者スポーツ大会に寄せて

公益社団法人東京都身体障害者団体連合会  
会 長 三 宅 裕

「第26回東京都障害者スポーツ大会」が多くの方々の参加を得て、開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

3.11東日本大震災から十四年、そして、昨年元旦に起きた能登半島地震や岩手県大船渡市の山火事等の自然災害で、胸を痛めることが多く、日々の何気ない日常生活の大切さが痛感されます。

ご出場される選手の皆様、ご本人の日々の研鑽は言うに及びませんが、ご家族等の支えがあってこそだと思われまます。

また、直接、スポーツをすることが出来なくとも観戦し、心から応援するのも「スポーツ」のひとつのあり方だと思います。

障害者がスポーツに親しむ原動力は、各々が自立と社会参加、共生社会の方向性を国内外に示す重要な意味があると思います。

今大会へ出場される選手の皆様、日頃の練習の成果を思う存分発揮し、本年10月25日から滋賀県で開催される第24回全国障害者スポーツ大会「わたSHIGA輝く障スポ」に東京都代表として出場することを目指して、頑張っていたいただきたいと思います。私達も応援しております。

そして、目標を高く持ち、その先にあるものを目指して、選手として出場することへの希望を繋げてください。

また、東京都障害者総合スポーツセンター並びに東京都多摩障害者スポーツセンターを活用され、多くの方々との「ふれあい」を大切に、コミュニケーションを広げてください。

末筆になりますが、大会の準備等に、ご尽力をいただきました大会関係者及びボランティアの皆様にご心より敬意を表し、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会の益々のご発展と大会の成功をお祈り申し上げます、挨拶いたします。



## 第26回東京都障害者スポーツ大会に寄せて

社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会  
理事長 立原 麻里子

「第26回東京都障害者スポーツ大会」が、多くの方々のご参加と、関係者の皆様のご支援ご協力のもとに、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

今年も各競技にさきがけて、東京体育館において第78回東京都スポーツ大会との合同開会式が開催されます。障害のある人もない人も、日々鍛錬し、競技に全力を尽くしていることに何ら変わりはありません。誰もが一人の都民として参加するこの合同開会式は、共生社会を象徴する1シーンになっているのではないかと思います。

また、この大会は第24回全国障害者スポーツ大会「わたSHIGA輝く障スポ」の東京都代表選手選考会を兼ねています。日頃の練習の成果を発揮して、東京都を代表して滋賀県での全国大会に参加できるよう、全力を尽くしましょう。

とはいえ、代表に選ばれることがすべてではありません。力を出し切った結果、選ばれなかったとしても、これまでの努力が色あせることはありません。選手の皆さんのスポーツに取り組む、打ち込む姿に、多くの人が勇気や元気をもらえることでしょう。この大会に、皆で楽しみながら参加していただけると嬉しいです。

昨年はパリでオリンピックとともにパラリンピックが開催され、障害者スポーツへの関心がさらに高まったのではないのでしょうか。さまざまな競技があることや、世界中で多くの障害のある人がスポーツに取り組んでいることを皆が知るとともに、その姿に心を動かされた人が多くいらしたことと思います。今年は東京でデフリンピックが開催されますので、皆で観戦し応援して、さらに障害者スポーツを盛り上げていきましょう。

結びにあたりまして、この大会を支えてくださっている大会関係者やボランティアのみなさまに心からの感謝を申し上げ、参加される選手のみなさまのご活躍をお祈りして、ご挨拶とさせていただきます。



## 第26回東京都障害者スポーツ大会

ライオンズクラブ国際協会330-A地区  
ガバナー 森 亮 介

「第26回東京都障害者スポーツ大会」の開催、心よりお祝い申し上げます。本大会は、障がいのある方々がスポーツを通じて自身の可能性を広げ、仲間と喜びを分かち合う貴重な機会です。日々の努力を重ね、この舞台に立つ選手の皆さまが、自らの力を存分に発揮し、新たな一步を踏み出されることを願っています。

スポーツには、身体を動かす喜びだけでなく、挑戦する勇気、努力を続けることの大切さ、そして互いを認め合う温かさが詰まっています。思い通りにいかないこともあるかもしれませんが、その一つひとつが皆さま、そして私たちの成長につながる大切な経験です。目標に向かって挑戦することで、自分自身の可能性をさらに広げることができるでしょう。この大会で生まれる達成感や感動が、未来へと進む力になることを願っています。

また、大会の開催にあたり、ご尽力された関係者の皆さま、ご家族、そして多くのボランティアの皆さまにも、心から敬意を表します。皆さまの温かい支えが、選手の皆さんの勇気と笑顔を生み出し、素晴らしい大会を創り上げています。競技に挑戦する選手だけでなく、応援する人々、支える人々すべてが一体となって大会は作られます。皆さんの思いが一つになり、大会がより素晴らしいものとなることを信じています。

ライオンズクラブ国際協会330-A地区も、「いつでも、どこでも、誰とでもできる奉仕活動」の精神のもと、すべての人がスポーツを通じて喜びを分かち合える社会を目指し、これからも支援を続けてまいります。スポーツは競技の楽しさだけでなく、人と人とを結びつける力を持っています。この大会が、皆さんにとって新たな友情を育む場となり、かけがえのない思い出となることを願っています。

皆さんの挑戦を心から応援しています。どうか最後まで力を尽くし、自分を信じて、競技を楽しんでください。努力と情熱が実を結び、大きな達成感と喜びを感じられる大会となりますように。そして、笑顔と感動あふれる瞬間が、皆さんの心に深く刻まれることを願っています。



## ごあいさつ

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団  
理事長 塩見清仁

第26回東京都障害者スポーツ大会が、多くの関係者の方々の御協力を得て開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

本大会は、本年10月に滋賀県で開催が予定されている、第24回全国障害者スポーツ大会「わたSHIGA輝く障スポ」の東京都代表選手選考会を兼ねた都内最大規模の障害者スポーツの祭典で、全国大会出場という大きな目標につながる大会でもあります。また、当事業団が管理運営しております東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場及び東京アクアティクスセンターでも競技が実施されます。皆様が練習の成果を遺憾なく発揮され、熱戦が繰り広げられることを心から楽しみにしています。

さて、本年は「東京都スポーツ推進総合計画」が改定され、誰もがスポーツを楽しむ東京の実現に向けたスタートの年となります。そのような中、本年いよいよ東京2025世界陸上競技選手権大会及び日本初の第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025が開催されます。こうしたスポーツ実施気運の高まりと合わせ、本大会の開催を通じて、パラスポーツの競技力向上と更なる理解・普及促進の契機となることを期待しております。

当事業団は、本大会の成功はもとより、「スポーツフィールド・東京」の実現に向けた様々な取組に積極的に参画して参ります。その取組のひとつとして、都立の特別支援学校を障害者スポーツの拠点として活用する「都立特別支援学校活用促進事業」を今年度も引き続き実施いたします。都民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、これまで以上に障害者スポーツの振興に寄与して参りたいと考えております。

結びに、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会並びに本大会実行委員会の皆様方の御尽力に敬意を表しますとともに、大会の成功と選手の皆さんの御健闘をお祈り申し上げます。



## ごあいさつ

一般財団法人 東京都弘済会  
理事長 石原清次

第26回東京都障害者スポーツ大会が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

ご承知のとおり、この大会は、障害のある方々がスポーツを通じて、自らの体力の維持増進及び社会参加と相互交流の促進並びに都民の障害者に対する理解の増進を図ることで、障害者の自立促進とスポーツ振興に寄与することを目的として開催されています。

今年は、日本で初めてのデフリンピックである第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025が、11月15日～11月26日(12日間)開催されます。参加国は70～80か国・地域で、各国選手団等約6,000人が参加予定です。障害のある方々のスポーツやアスリートについては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催で日本中から多くの注目を集めました。また、パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会の開催によって、さらに感動と関心が集まっています。

第26回東京都障害者スポーツ大会が、平穏で安定的に開催できる状況の下で、選手や関係者の皆さまの日ごろの努力の成果がいかんなく発揮され、輝かしい結果をあげ、感動を与えていただけることを心から願っております。

一般財団法人東京都弘済会では、障害のある方々などに対する福祉事業等を多数実施しております。障害者のための「ふれあいコンサート」に協賛するとともに、病院、障害者施設等に出向き小編成の音楽演奏会を開催するほか、障害者等の心身の健康増進や地域交流を図るため、障害者施設等で出前演芸会を開催しています。また、在宅介護者交流日帰りバス旅行なども企画しておりますので、ぜひお越しいただきたいと思っております。

最後に、あらためて、本大会の運営にあたるスタッフの方々、関係団体及びボランティアの皆さまのご尽力に敬意を表するとともに、本大会に参加されるアスリートの皆さまのご健闘を心より祈念しまして、あいさつとさせていただきます。



## ご挨拶

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会  
会長 木村 恵 司

第26回東京都障害者スポーツ大会が多くの皆さまの参加のもと、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

昨年開催されたパリ2024パラリンピック大会では、日本からは選手175名が参加し、計41個のメダルを獲得することができました。そして、本年には100周年の記念大会となるデフアスリートの総合的な国際大会であるデフリンピックが日本で初めて東京で開催されます。これらの祭典を契機に、わが国の障害者スポーツが一層発展していくことが期待されています。

そうした中で、東京において開催される障害者スポーツ大会は例年以上に有意義でその後の国際的な障害者スポーツ大会の機運を盛り上げる重要な大会です。今大会において、アスリートの皆さまの日頃の努力が遺憾なく発揮され、そのひたむきな姿が多くの都民の目に焼き付き、共感と感動を呼ぶことを期待しています。

さて、私ども、東京都社会福祉協議会では、5か年の中期計画を策定し、“協働”で目指す『東京らしい多様性を活かした地域共生社会』をビジョンとして掲げているところです。東京らしい多様性を活かし、幅広い協働により「個別支援」と「地域づくり」を双方向で循環させ、「目指す地域社会の姿」に向け、誰もが自分らしく暮らし・支え合う地域共生社会を目指しています。地域住民のつながりを取り戻し、障害のある人もない人も共に理解をすすめるための方法として、区市町村社会福祉協議会や社会福祉法人による地域住民に対する地域公益活動などにおいて、ボッチャなどのパラスポーツを活用する事例も増えていきます。地域共生社会の実現に向けて、多くの関係者が手を携え、協働していくことが求められています。本会においても、関係者の皆さまと連携しながら、障害のある方々の社会参加と地域におけるスポーツ活動を支援していく所存です。

最後になりましたが、あらためて第26回東京都障害者スポーツ大会のご成功を祈念いたしますとともに、参加される選手はもとより大会の実施や運営にかかわる関係者、また、東京都障害者スポーツ協会の皆さまのますますのご活躍をお祈り申し上げ、お祝いのことばとさせていただきます。